

# ハチ博士の ミツバチコラム

25



京都学園大学  
バイオ環境学部  
坂本文夫教授

## ハチのホテル

授粉行動をするハナバチはミツバチだけではなく、マメコバチやマルハナバチなど、世界に2万種以上、日本にも約400種もいるそうです。リンゴの産地ではマメコバチが活躍しています。ミツバチのような社会性昆虫ではなく、単独で生活しており春になると巣から這い出し、訪花して授粉をしながら花粉を集めて竹や草の筒の中に作った巣に持ち帰り産卵します。リンゴ農家ではマメコバチの巣になる草の筒を束ねて軒下に吊り下げて、大事な授粉の担い手を増やそうとしています。

授粉に役立つ野生のハナバチが減少しているのと、果樹栽培が集約的になり、自然のハナバチの授粉行動だけに頼ることは難しくなってきたので、果樹農家が授粉目的でハチを飼育したり、養蜂業者からレンタルするのが一般的になって来ています。しかし、日本では授粉目的で保護されているのはミツバチを始め数種類です。

パリの植物園には写真のような「ハナバチのホテル」が設置されています。色々な大きさの穴を開けた丸太や竹筒、草の髓などを見栄えよく積み上げて、屋根を付けています。このホテルは野生のハ

ナバチに住む場所を提供するもので、看板には「いずれのハナバチさんも大歓迎!」とあります。都市養蜂の先進都市であるパリでは、ミツバチの都市養蜂が世界中に広がり珍しいものでなくなると、もう一步先を行こうと野生のハナバチ達にも目を向けて、保護しようとしているのです。ホテルのデザインも考え方も、いかにもパリ風ではありませんか。

